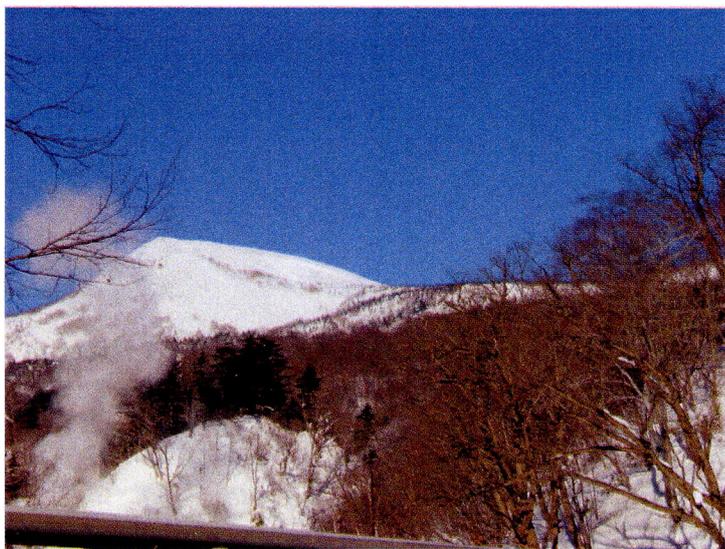


第二部

参考

八幡平付近で見られた雪崩の写真

1. 2003年2月19日 源太ヶ岳東面斜面の雪崩（雪崩事故と同じ場所）



撮影者・平山一宏氏のコメント： 私が源太に登る時は、雪尻の右側（北）から登っていました。たまにブロックがありましたので、雪尻の出来る範囲は危険だとは思っていたのですが、まさか山頂から滑り降りるラインまで雪崩れるとは思っていませんでした。でも、そこが沢の始まりでその下に雪が集まるんですね。雪崩れても西風が強いのですぐ隠れてしまって分からないことが多かったと今になって思います。

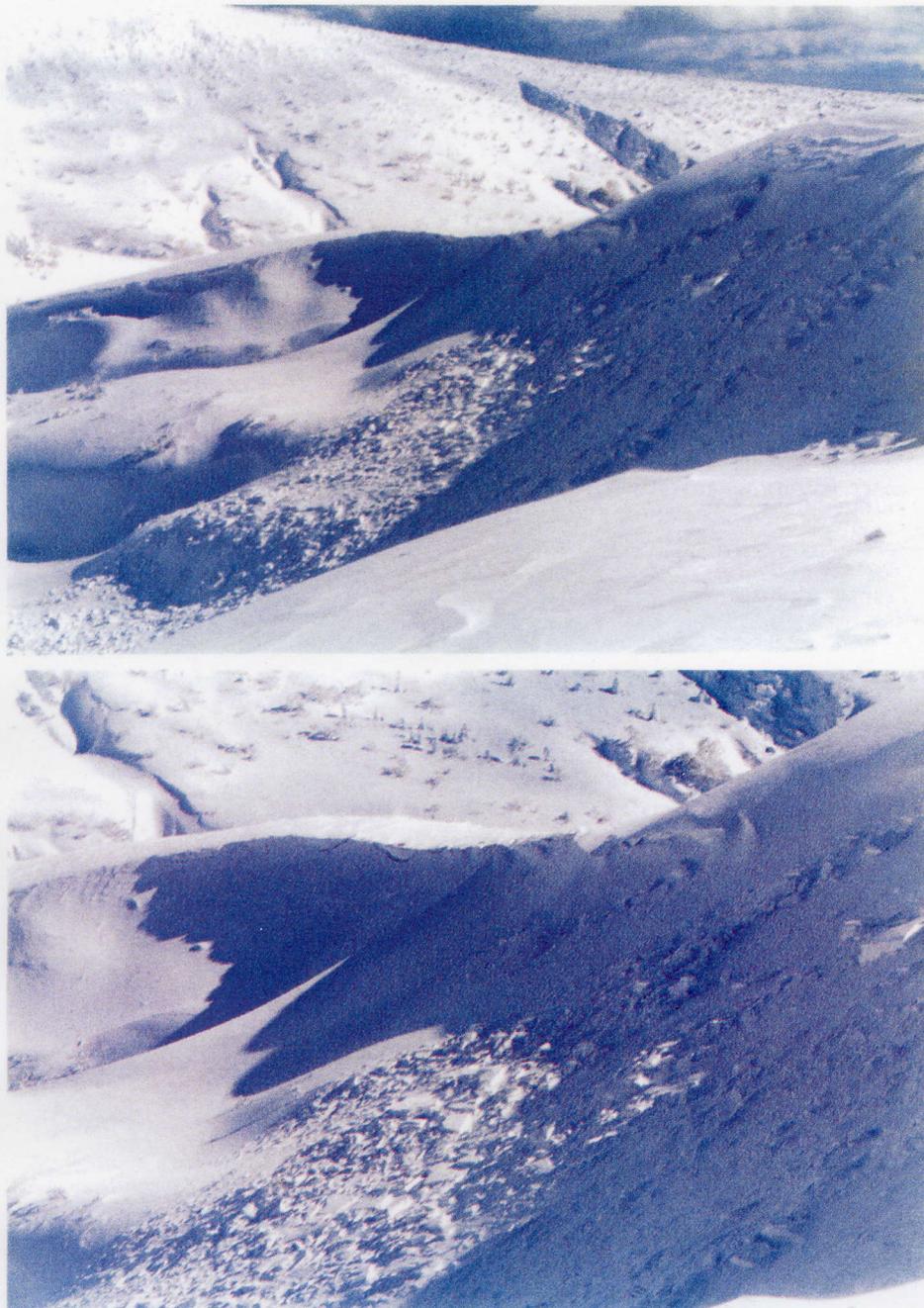
秋田谷英次先生のコメント： 表層雪崩のように見えます。左側雪崩が下までデブリが到達し、右に斜面途中で止まっているデブリが2つあるように見えます。また右端デブリの右側に吹きだまりがあるように見えます。雪の堆積状況は昨年と同じように見えます。2月10日頃からのアメダスの毎時データを解析すると晴天で夜間に放射冷却したことがあるかも知れません。これが雪崩だとすれば（面発生乾雪表層雪崩に間違いのないと思いますが）大変貴重な写真です。

2. 1999年4月23日八幡平・藤七温泉上部東面斜面での全層雪崩



藤七温泉上部、秋田岩手県境の岩手県側斜面での大規模な全層雪崩。このあたりは春スキーのメッカで休日には多数のスキーヤーやボーダーが横切る斜面である。このような大規模な雪崩の記録はない。稜線から幅30メートル長さ30メートルほどの範囲で全層雪崩が生じ、その雪塊が50メートルほど落下したところで破碎。雪崩の先端部のみでなく、崩落部を中心に左右及び下方の三方にクレーター状に分厚くデブリが堆積していた。デブリの最も厚いところでは厚さ5メートル以上幅は数十メートル。さらに巨大なデブリが雪上を滑り、道路から50メートルのところまで先端が到達。幸い巻き込まれた人は居なかった。雪崩発生前に大量の降雨があった。

3. 1995年1月29日 笹森山東面斜面の表層雪崩



笹森山（標高1414m）は秋田駒ヶ岳の一角。中央に見える尾根の向こうは8合目小屋あたり。厳冬期に生じた表層雪崩。